

2019年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 福島県 】

学校名【 会津若松市立第一中学校 】

1 実践テーマ	I・II・III・IV・ V
2 実施対象者 (学年・人数)	対象学年：全学年 1学年5クラス、2学年4クラス、3学年6クラス 特別支援学級2クラス 合計470名 保護者地域の方：約200名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 () ② 行事名 (洗心のつどい (校内文化祭)) ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	「リオ五輪女子バレーボール日本代表佐藤あり紗さんから学ぶ」 講演会を通して、以下の3点を学ぼう。 ①夢の実現に向けて佐藤さんが努力してきたこと ②佐藤さんのオリンピックの経験 ③本校の教育目標「世界につらなる一中生」の達成のために、自分自身が心がけること、大事にしたいこと
5 取組内容	本校では、校内文化祭(洗心のつどい)にて、元リオ・デ・ジャネイロ五輪バレーボール代表の佐藤あり紗氏により、『バレーボール ～出会いと運～』という演題で講演を実施、生徒および保護者、地域の方が多数、講演会に参加した。佐藤氏より、オリンピックに向けての練習内容、強いチームの条件等について講演をいただいた。佐藤氏は、生徒からの質問の一つひとつ丁寧に応じられ、生徒は笑顔にあふれていた。また、講演会終了後には、佐藤氏より提案があり、代表生徒(バレーボール部、クラスの委員長)とパスの練習を体験させていただいた。 事後指導として講演会についての振り返りをした。短時間ではあったが、オリンピックを実際に体験した選手との交流が、生徒の心に残る大変貴重な機会となり、多くの生徒が「良い講演会だった。感動した」等と感想に書いていた。



<p>6 主な成果</p>	<p>講演会終了後にアンケートを実施した。生徒の感想には、「勝ちたいと思うより、負けたくないと思った方が強いという言葉が印象に残った。」「ボールが遠くに行ってしまうと、絶対に無理だと思ってもあきらめずに粘り続けるといつかボールに届くようになる」「チームワークが大切であること。小さなことでも誰かのために何かをしたり、クラスみんなで協力したりすることが大切である」などがあり、多くの生徒の心に残るものとなった。</p>
<p>7実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<p>校内文化祭(洗心のつどい)にて、本校生徒および保護者、地域の方も参加できる講演会形式で実施した。 リオ・デ・ジャネイロオリンピック出場時のユニフォームを会場に展示するとともに、試合の映像を流して興味・関心を高めた。また、講演会終了後に生徒に感想を書かせて振り返りをさせた。</p>
<p>8主な課題等</p>	<p>学校にある部活動に関連する競技のオリンピックを招聘しての講演会及び、実技指導の実施は効果的である。 本校でも、講演会のあと、質疑応答、実技体験(バレーボールのパス体験)と時間が足りないくらいであったが、大変に盛り上がり、生徒の生き生きとした表情が見られた。</p>
<p>9来年度以降の実施予定</p>	<p>オリンピックと実際に出会い交流を深めることが、生徒に夢に向かって努力することの大切さを再認識させる非常に有効な機会となることを改めて実感した。 なお、保健体育や総合的な学習の時間等でオリンピック・パラリンピック教育推進を組織的・計画的に検討していきたいと考える。</p>